

(1) 政治経済学部政治経済学科の設置理念

日本は現在、他の国々と相携えて秩序ある世界経済の発展に貢献する責任をますます大きく背負う立場にあり、欧米先進諸国とイコール・パートナーとなるに至っている。一方国内的には、都市化・工業化・民主化・情報化の波は日本の地域社会をも、国際的変化に直接連動させる結果をもたらし、日本社会を大きく変えつつある。このような社会変動の渦の中で、一方での科学技術の国際化と他方国際関係の理解や、協応の実をあげるためには、国内外を問わず、政治経済が新たに重要な意味を持つに至り、実社会の第一線で働くとする人材の教育には、政治経済の統合された知識が不可欠となってきた。

そこで本学科では、国際的視野に立つ知識や教養を重視する立場から、まず語学教育を重視する。また、キリスト教世界に属する諸外国の政治経済を中心とする地域研究を進める一方で、日本やアジアその他の国々の地域研究を行い、両者を比較考量する知識を受けるとともに、本学が立地する埼玉県が日本の中でも最も典型的に都市化、高齢化、就業人口の急増化、階層変化等が急速に進みつつある地域だけに、このような社会変動を政治経済の局面において捉え、また社会学的、行政的、法的な観点からも考察する。

(2) 政治経済学部コミュニティ政策学科の設置理念

今日の日本社会の大きな変動の一つとして、行政改革における中央から地方へ行政重心の移動がある。このことは、日本国憲法の国民主権の原理の必然的な帰結であり、相当永続的な動きとなっていくことが予想される。コミュニティ政策学科は、今や本格的に始まろうとしている地方分権の時代への聖学院大学の新しい積極的な対応として開設された。本学科は、地方自治の明確な理念を持ち、その理念の実現と展開への知識と技能を持つ、新時代の地域社会の担い手の養成に取り組む。

政治経済学科がモダナイゼーション（近代化）からグローバリゼーション（世界拡大化）へという軸をもって構想されたのに対して、本学科はグローバリゼーションからローカリゼーション（地域社会化）へという軸をもって構想された。モダナイゼーションの動向は、その中に人民主権の主張するデモクラタイゼーション（民主化）の動向を含むゆえに、近代の象徴としての「国民国家」の時代を超えて、必然的にローカル・コミュニティの形成を重視するローカリゼーションの視点が立ち現れ、そこからその社会変動を明確に捉え、それをもって新しいコミュニティ形成を推進する人材養成の課題と取り組むことが要求されてくる。その視点は、マクロの展望をミクロの視点へと収斂させ、日本の新しい社会を

形成する実務的人間の要請の課題を見出さしめる。本学科の目的は、この社会変化に正しく対処し、その方向を善導し、ローカル・ナショナル・グローバルなレベルにおけるコミュニティ形成という政策課題と取り組む人材を養成することであり、そのためにすべて地域社会にその生の基盤を持つ新しい世代に、新しいコミュニティ形成に必要な基礎知識と基本精神と応用能力を涵養することを目的とする。また本学科は、大学院・政治政策学研究科と対応して、現代社会変動における行政学的取り扱いを特に養成する。

(3) 人文学部欧米文化学科の設置理念

時代の趨勢である国際化に対処し、本学は、その自らの存立が根ざすプロテスタント・キリスト教の伝統の精神および文化を継承しつつ、それを研究・教育する「欧米文化学科」を開設する。このことは、あたかも心臓が血流をもって生命体を生かすように、学校法人聖学院の内的要求である。また本学科は、日本国憲法によって規定され、しかもわが国が共有していることを世界に公言しているところの、いわゆる欧米西側文化価値を正しく理解し、それをもって国際社会に貢献し得る人材の養成に取り組むことを目的とする。

欧米文化はその本質において「キリスト教文化」であるから、その精神的核心であるキリスト教の理解から欧米文化を探究させる。また英語教育には特に力を入れ、集中的に学習させる。

歴史を縦軸とし、比較研究を横軸として国際文化関係、文化グローバリゼーションを探究する。また歴史、社会思想、文学、芸術、宗教、近代化論などをとおして、ヨーロッパ文化、アメリカ文化をそれぞれ統合的に把握する訓練を与える。

(4) 人文学部日本文化学科の設置理念

欧米のキリスト教文化の到来が惹き起こした日本文化との出会いは、単なる文化の比較論によっては捉えられない深い次元での文化接触であり、それは新しい日本学を要求するものである。今や日本文化の研究は、単なる多元主義による自家文化の特殊性の擁護や主張に留まることもできない。むしろグローバリゼーションという文化地平が拡大してゆく中で、自家文化の特色を自覚しそれを新しく人類文化の文脈の中で理解し、新しい文化交流へと生かすという、「日本学」が要求される。日本文化学科は、この新しい文化グローバリゼーションというコンテキストにおける日本学に取り組む。本学科は、日本文学のほか、広く歴史、宗教、思想、芸術など、ひろく視野を拡大して、日本文化の新しい見直しと統合の方向を模索する。また本学科は、近隣の東北アジアとの文化交流を視野に入れつつ新しい日本学を展開していく。

(5) 人間福祉学部児童学科の設置理念

元来児童の問題は広く人間全体の問題関心のコンテクストにおいて捉える必要があり、それ故それは深く人間学的基礎において取り組まれるべき課題である。本学は人間福祉学部の中に児童学科を設置し、これらの問題と学術的、教育的に取り組む、将来の社会の担い手として社会の希望としての児童の育成に広く貢献すべきと考える。この目的のため、本法人の伝統的遺産であるキリスト教的人間理解、児童観、ならびに家庭観を生かしつつ、併せて新しい児童の研究を発展させ、その関連で幼児教育者の養成を新しく展開していくことは、日本社会における本法人の教育的学術的使命である。

本学科は、キリスト教による児童理解の確立を目指す。キリスト教教育論、キリスト教幼児教育特講などによって、児童の人間形成における宗教の意義について考え、キリスト教の人間観、児童観をとおして、人間形成の本質をみきわめる力をつけさせる。また児童を、その生活と文化、成長と発達、教育および福祉などの視野から総合的に研究し、新しい総合的児童研究の確立を図る。そのために、児童文化系統、心理学系統、関連系統を設ける。また生涯の専門職としての幼児教育者の育成のため、特に音楽教育に力点を置く。

(6) 人間福祉学部こども心理学科設置理念

現代において、心身の問題、また発達障害などの課題を抱えているこどもたちがいる。本学では日本社会の明日を担う時代のこどもたちの精神的課題の突破口に光を当てるためには、専門的に心理学の課題と取り組まなければならないことを自覚するに至った。そこで、十分な専門的基礎の上に立ってこの現代的課題と取り組む学科を設立することとした。

また、近年発生した大災害に起因した短期および長期にわたる心理学的課題を負うこどもたちをはじめ、心身ともに多様な困難さの中にあるこどもたちに対する心理学的ケア・サポートを実践する機会を提供し、その体験を通して共感性を持った社会的貢献のできる人材を育成する必要も、これからの課題だと考える。

本学科では、心理学の専門知識や技能に基づき、こどもの発達を心と身体とそれを取り巻く環境・文化という3つの側面から学ぶ。こどもを幼児や児童に限定せず、個体発生から青年期に至る期間を“こども期”と捉え、この広範な“こども期”にある人々の心身のケア・サポートを提供する上で不可欠な、心理学各分野の基本的な知識や技能と、健康の維持増進に関する基礎的知識、多様で複雑な事象を客観的に捉える科学的な態度を十分に習得できるよう計画する。

こどもの人格・人権を十分に尊重することができるゆるぎない価値観と深い人間理解の基盤を形成し、各々、その価値観に基づいて社会貢献ができる有為な人材の育成を目指す。

(7) 人間福祉学部人間福祉学科の設置理念

福祉は人間の根本欲求であり、人権の内容を規定すると同時に、社会の性格をも規定する。それは日本国憲法第 25 条に表現されている。この憲法の理想は、福祉文化の基盤整備なしに、空文となる。福祉は、文化の成熟度の指標だからである。福祉文化形成は、福祉社会として制度化されねばならない。

17 世紀ピューリタン革命の時、「人民の福祉が最高の法なり」との古いストア的格言が新しくキリスト教的含蓄をもって主張された。それは福祉的人間の自覚と福祉による社会の再構築の意志とを生み出した。それは現代日本の社会的課題でもある。人間福祉学科は、このピューリタニズムの伝統を継承し、現代に生かすことを企てる。

福祉社会の形成は、国家のすぐれて政治的行政的課題である。しかし、またそれだけでなく、福祉社会がしかるべき人間的基礎を要求するものであるかぎり、それは教育の課題でもある。福祉社会がいかなる制度的形態をとるべきか、本学はそれを教育の課題として受け止める。

福祉文化人、もしくは福祉人は、福祉社会の人間的基礎である。福祉人の養成なしに、福祉社会の形成はない。本学科の使命は、福祉文化の担い手たる福祉人の養成である。そのような人間の必要は、社会福祉という特定の分野に限定されるべきではない。社会のいたるところで、福祉人は、社会を福祉社会へと膨らませるパン種と成る人間とならねばならない。

しかし本学科は、福祉文化の担い手としての基礎教養を備え、社会福祉の現場で働く専門職の養成という具体的焦点を併せ持っている。精神なき専門人でなく、精神だけで専門的訓練のない心情家でもなく、福祉人という人間的基礎を持った福祉士である「精神ある専門人」を養成することを目指す。